

1 (5) 地域との連携

信州型コミュニティスクール

こんな実践

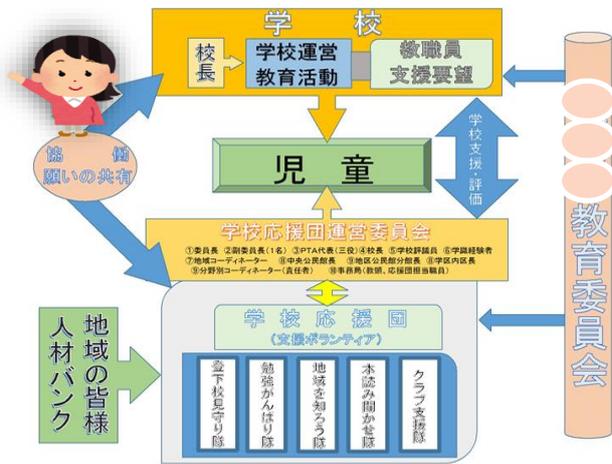
地域の方々に、気持ちよく学校の活動に関わってもらえるための工夫にはどのようなものがあるでしょうか。信州型コミュニティスクールの在り方を考えた実践です。

実践学校 E小学校

実践時期 前年度2学期から

- E小学校では、次年度から発足する「学校応援団」開始に向け、前年度に規約を定め、学校・保護者・地域から組織された「運営委員会」を立ち上げました。

運営委員長は地域の方から選出し、メンバーは公民館長や区長、学校評議員、PTA三役、学校長、担当教員から構成されました。



ここがポイント!

発足後、校内の「学校応援団」の担当はどのようになっていたのでしょうか。

- ✓ 校務分掌に位置付けました。発足1年目は「学校応援団」の窓口を担当する教員がおり、各「隊」にも担当教員を配置しました。2年目から窓口は教頭が担当しました。全教職員の半数が「学校応援団」に関わり、もう半数はPTAに関わっています。

- 様々な活動の中で、登録して下さった隊員の皆さんとのふれあいがあります。
 - ① 「本読み聞かせ隊」と子供たちとの最初の出会いは、1学期の朝活動の時間に行われている紹介式です。隊員の皆さんには1年間同じ学級を継続して担当してもらい、関係を深めていきます。2月には子供たちが、メッセージやお礼を手紙にして渡します。

「本読み聞かせ隊」の皆さんは月曜の朝に読み聞かせを行います。学級の子供たちを見守ってもらえるので、担任は職員朝会に安心して出席し1週間のスタートを切ることができています。



本読み聞かせ隊の皆さんと全校児童の出会い

② 「クラブ支援隊」は、隊員の皆さんと学校職員の担当との打ち合わせ会を経て、第1回クラブで子供たちとの顔合わせを行います。

第2回以降のクラブで本格的な活動を開始していきます。隊員の「講師」の皆さんの負担が多くなならないよう、クラブの活動時間を5、6時間目の2時間を基本とし、来校日数を減らす工夫をしています。



地域めぐりで地域の自然を眺める子供たち

特色あるクラブ「地域めぐりクラブ」は、担当職員が学校応援団運営委員の地域コーディネーターと連絡をとり、その都度「人材バンク」に登録されている講師に活動協力をするため、様々な活動が可能になっています。



ここがポイント！

年度末は子供たちの気持ちや団員の方の意見はどのように伝え合っていますか。

- ✓ クラブごと子供たちが感謝の言葉を伝えています。また、それぞれの隊員から出された率直な意見を、全体会で、各「隊」の応援団代表者と教員が共有して、次年度に生かすようにしています。

○ 以下は、隊員を経験した方から寄せられた体験記です。この隊員の方は、「勉強がんばり隊」として、児童を見守っていただきました。

『学校応援団』体験記 60代男性 Eさん

応援団も3学期に入り校内での子供見守りが始まりました。

自分の孫の参観日のつもりで参加しました。担当の先生から事前にクラスの状況を聞かせて頂き、まず1年〇組へ、可愛い笑顔に迎えられ授業が始まりました。まだ1年生ですので保育園の延長の気分が残っており、この子供たちに勉強を教える事は大変な事で全員の子供の心を一つにして、一つの事を、理解の早い子、遅い子同じように納得させて覚えさせる技術はさすが先生と言われるゆえんである事をまず実感しました。先生方に感謝。

授業参観と異なり、子供たちのノートを見たり、多少は指導もしてチョッピリ先生気分。二回目ともなるとすっかり子供たちも覚えていてくれ〇〇と一緒にやろうと誘ってくれすぐに楽しい1時間が過ぎていきました。

2時間目は1年〇組に。支援員の先生も居られ中々ユニークなクラス。なかなか席に着かない子供、お友達とお話ばかりしている子供。当番さんが号令を掛けるのに中々皆が前を向いてくれなくて係の子供も大変ですが、今後の成長が楽しみです。

次に訪問した時はグラウンドで縄跳びの授業。教室での姿と一味異なる姿が見られました。二重跳び、交差跳び等難度高いコースがあり持久力が試される縄跳びを見学して、1年生がここまでやるのかと驚かされカルチャーショックを受けました。

グラウンドの片隅での授業でしたが、遠くに行ってしまう子、縄跳びをしないで、石蹴りを一生懸命する子、マンツーマンで挑戦する子、大きな声で回数を数える子、楽しい体験でした。

自分の子供や、孫の授業参観と違い新たな発見と感動が味わえます。子供たちも先生とは違った目で観てくれているように思いました。

多くの皆様にも体験していただければ有難いと思います。是非ご参加ください。

まとめ

- ・活動を体験した上で、子供たちと関わることを喜びと感じ、その輪を広げようと思いを寄せ、多くの皆さんの参加を呼びかけてくださる隊員の方もいます。
- ・子供たちが、地域の祭りや地区行事でも「隊員」の方と出会う場もあり、地域とのつながりを感じる機会が増えています。